かおくりの不思議を歩こう ㉓

極楽寺のパワー地図

大貫昭彦

＊獄門の口？　浄土の玄関？　極楽寺地区は鎌倉幕府の防衛基地として、また不吉な魔物の侵入に備える結界とされてきました。古くは地獄谷と呼ばれましたが、寺が開かれると西方浄土の地とされました。長谷方面から極楽寺切通を越えると、まず地蔵菩薩が出迎えてくれます。朱塗りの桜橋のたもとにある導地蔵堂の本尊で、600年前に造られた仏さまです。

＊導地蔵堂の空気　かなりの力のある仏さまのようで、早速反応する人が現れました。熱を感じるそうです。そうした場所は三つあり、大根会のメンバーの話では賽銭箱の左右と本尊の辺りで、パワーの一番強い個所は、地蔵菩薩の所のようですが、堂に入るのは遠慮したので強さの程度は不明です。賽銭箱の左右では右の方が強く、30代の女性は「堂の中は暗いけれど右のスポットに立つと明るくなり、本尊の顔もよく見える」と証言してくれました。ただ、大根師の感想は少し違い、「堂内の雰囲気はよくなかったが、祈り続けたら改善された。中を掃除したいですね」と。

導地蔵堂

＊三塔に眠る上杉憲方　導地蔵堂を辞して桜橋を渡り、向かいの路地に入ると、国史跡の上杉憲方の墓があります。関東管領を務めた武将の墓です。憲方の時代は、京都の将軍と鎌倉公方の仲が悪く、一触即発の状態でした。そのため調停役の関東管領は苦労し、憲方の兄の憲春は和平と引き換えに命を絶ちました。憲方が関東管領になったのは、このためです。

想定外の役回りでしたが、憲方は京・鎌倉の争いを鎮め、無事役目を果たしました。平和功労者は、今三つの墓に眠っています。極楽寺坂のこの墓と近くの民家の裏、北鎌倉の明月院やぐらです。憲方は明月院を開いた人でもあったのです。

＊祈りの力で空気が変わる　天寿を全うしたとはいえ、戦乱に明け暮れた武将の墓です。大根会の一行が墓前に立った時、突然風が吹き出しました。大根師も気味の悪いことを言われました。

「非業の死を遂げた人の気配がする。側室とか子供とか、追腹を遂げた者でもいるのかな」。

それでもお参りが終わると明るい風になり、空気も穏やかになりました。大根師の打つ拍手の音も澄み、前より響くように感じました。

憲方墓で祈る大根師

ここのパワー・スポットは、大きな五輪塔の前と後ろ、七層塔に向かって右横の三か所のようです。祈りながらよろめく人も見られました。

＊熊野新宮のパワー　次に訪ねた熊野新宮も大変強いパワーを発揮するスポットのようです。極楽寺の東の谷奥に鎮座し、歴史ある神社です。境内に立つだけで聖地の厳粛さに打たれました。

熊野新宮

鳥居を潜ってすぐ暖かさを感じました。大根会の人たちは「社殿正面の階段右下、境内の左、石碑が並んでいる辺り、この二か所がスポットらしい」と教えてくれました。参加者からは「頭がすっきりした」(30代女性)、「足がぽかぽかする」(複数)、「右手だけ暖かい」(50代女性)、「上に引っ張られた」(50代女性)などの感想を聞くことができました。

＊パワー渦巻く極楽寺　お寺のパワーも相当なものらしい。不動堂の前の石段下では「腰や背中まで熱を感じた」(70代女性)の声が聞かれました。これとは対照的に月影地蔵堂は冷気を感じさせる所のようです。堂に近寄れないという人までいました。この地区は陰陽さまざまなパワーが渦巻いている感じです。

東日本大震災から8年

宗教を越えて祈願祭

鎌倉で1000人余が参列

東日本大震災から8年を迎えた3月11日、鎌倉の神道、仏教、キリスト教の宗教者がカトリック雪ノ下教会（鎌倉市小町）で、震災の追悼・復興祈願祭を行った＝写真。

鎌倉宗教者会議（吉田茂穂会長）が2011年の震災発生1カ月後の4月11日を初回に、毎年3月11日に市内の寺社や教会で行っている合同祈願祭で、9回目。

大聖堂に集まった100人を超える宗教者と市民ら約1000人が、震災発生時刻の午後2時46分に黙祷を行った後、鶴岡八幡宮を中心とした市内の神社の神職がお祓いをして大祓詞を斉唱、玉串拝礼を行い、続いて光明寺・柴田哲彦法主が表白、僧侶らの南無阿弥陀仏・観音経の読経があり、キリスト教諸教会の司祭、牧師、信徒による聖歌、祈りが捧げられた。

参列者の焼香が行われ、宗教者の祈りが終わってからもなお焼香の列は続き、讃美歌の歌声が堂内に響いた。

同教会の古川勉主任司祭（61）は「心を一つにして祈ることは意義深い。今も苦しんでいる人がいることを忘れてはならないと思う」と語った。

福島のおばあちゃん直伝

モンタナ幼稚園でみそづくり教室

東京電力福島第一原発事故で被害を受けた福島県飯館村の佐須地区では前年につくったみそを「種みそ」として味噌づくりをする独自の製法が受け継がれている。そのみそづくりを体験しようと鎌倉市津のモンタナ幼稚園で2月24日、「第5回親子みそづくり教室」が行われ、同幼稚園児や近所の親子連れなど約50人が参加した＝写真。

震災を奇跡的に免れた「種みそ」を、関東を中心に残していく運動が2014年から始まり、鎌倉でも雪ノ下の酒井太郎さんが中心になり活動。当日は村に昨年戻れたみそづくりのベテラン菅野栄子さん（82）と菅野芳子さん（81）がお礼を兼ねて訪れ、みそづくりを伝授。参加者は玄米こうじと塩と煮大豆をポリ袋に入れて振って混ぜ合わせ、仕上げは直伝の「種みそ」を入れ、子どもたちが足で踏むなど体全体を使い楽しく作業した。仕込んだみそは9月頃にはおいしいみそに仕上がるという。

菅野さんたちは「多く の方々に励まされ、伝統のみそが残りました」と喜びを語った。

万一に備えた津波避難対策

逗子の自治会が横国と連携

横浜国立大学の研究グループが約4年にわたり逗子市新宿自治会と津波避難や防災のまちづくりについて連携してきたプロジェクトの報告会が3月16日新宿自治会館で行われ、約20人が参加した＝写真。

同大学は津波浸水被害が甚大と予想される逗子市へ避難ビルの新設や大津波警報の発表から5分で高所への避難が完了できない地域に向けた「津波避難シェルター」を提案してきた。昨年11月には渚マリーナに浮かべたシェルターの搭乗体験を実施。今回その時のアンケート結果と和歌山県串本町で調査したシェルターの導入例を紹介し、逗子での導入について意見交換した。住民から、すぐにできる対策として有効、置き場所や費用、運用などの面で実現は難しいなどの意見があった。

逗子での先進例になればと1カ月前8人乗りのシェルターを約4百万円で購入したという住民は「人生最後の買い物と思った。日頃から服のまま海に入る訓練や津波被害の録画などを見ることも必要」と話し参加者にシェルターを公開した。

福井八州雄副会長(75)は「補助金があればシェルター購入者も出てくるかもしれないが、まずは住民の津波避難への意識を高めることが必要」と話し、同大学との連携の成果を踏まえた避難経路の整備や、住民主体の避難計画の作成を進めていく方針を示した。（K）

明治37年創立
学校法人 鎌倉女学院
中学校・高等学校
心身ともに健康で
国際性豊かな人間教育
〒248-0014 鎌倉市由比ガ浜2丁目10番4号
電 話(0467)25-2100(代表)

鎌倉といえば・・・
鳩サブレー
豊島屋
http://www.hato.co.jp

お香 香炉 香道具 匂い袋 高級線香 念珠 他
鎌倉に蘇える伝統の香り
香司 鬼頭天薫堂 鎌倉
鎌倉市雪の下1-7-5 小町通り八幡宮寄り
TEL. 0467-22-1081 (代)
http://www.tenkundo.co.jp/

鎌倉のさくら
高柳英麿 写真集 定価1,800円＋税
増補改訂版 歌人・尾崎左永子氏 推せん
★ご注文は Amazon や全国の書店でどうぞ
アート&ブックス 銀の鈴社 TEL 0467-61-1930 (水曜・日曜・祝日定休)
鎌倉市佐助 1-10-22 佐助庵 www.ginsuzu.com

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ 茅木家
☎（22）1460

鎌倉大町歯科
KAMAKURA OMACHI DENTAL
歯科・小児歯科・矯正歯科・歯科口腔外科
(各種保険取扱／初診　急患随時受付)
鎌倉市大町4−1−7
(木曜、日曜、祝日休診) ☎0467-81-4488
http://www.kamakura.dental/

漢方薬専門薬局・漢方処方調剤
大船の漢方薬
大船漢方堂
漢方薬専門薬局ですので、なるべく本人が御来店下さい。
〒247-0061 鎌倉市台1-3-10 TEL.0467(47)3311
営業時間：午前10時～午後7時　木・日・祝日休業